

## 第五回 e-Learning 研究会報告

### 法学部における e-Learning を取り入れた講義の一事例

#### ——Jenzabar 活用の取り組み——

五 島 京 子\*

#### 1. は じ め に

国土館大学法学部は、昭和41（1966）年に開設された当初、法律学科のみでスタートしたが、平成13（2001）年に現代ビジネス法学科が増設されて二学科となった。筆者は新学科設立に伴い、本法学部に着任した。筆者が所属する現代ビジネス法学科では、新設当初、入学時全員に指定されたノートパソコンを購入させ、1年次には法情報学を必修として課したうえ、Notes を利用しての e-Learning 導入を図ったが、意図した結果に到達できたとは言い難い。ノートパソコン必携は、必然的に卒論（手書きを認めない）やレポートにおけるワープロ使用を促し、当時においては文系学生の水準を上回る情報処理能力を身につけさせることができたと評価できるが、他方、めまぐるしく変化するパソコン市場を背景として、入学時一斉に同一機種を購入させることに対する不満に対応しきれず、5年目から一斉購入制度を廃止するに至った。

ソフト面についても、Notes は web 上で利用できないこともあり、徐々に利用されなくなった。これに代わる e-Learning として、最近では Jenzabar を利用する教員が法学部でも増えてきた。本報告は、必ずしもパソコンに関する知識を十分に持ち合わせているわけではない法学部の一教員が、パワーポイント作成技術をまがりなりにも身につけることによって、Jenzabar を活用するに至った経緯を紹介し、どのようにして e-Learning を情報処理科目ではない専門の講義科目やゼミ等で利用しているかを紹介するものである。

#### 2. 法学部における e-Learning 導入の経過

筆者が Jenzabar の存在を知ったのは、平成20（2008）年の3月である。情報科学センターが Jenzabar の講習会を頻繁に開催していた頃、筆者はちょうど在外研究中であったため、うかつにも導入後のかなり長い間 Jenzabar の存在すら知らなかった。平成20（2008）年度の講義準備をしていた新学期直前に、Jenzabar の存在を同僚から教えられ、手始めにいくつかの講義科目の登録をしたのが最初である。平成15（2003）年8月に鈞私立大学情報教育協会の授業情報技術講習会を受講し、講義においてパワーポイントを利用できるようになっていたこともその背景にあった。平成17（2005）年から18年（2006）年にかけてアメリカのロースクール（Duke University School of Law）でパワーポイントを利用した講義を受講し、これからは教育にパソコンを利用した技術をどんどん取り入れていかなければならないという思いを強くしたことも、利用してみようと思ったきっかけの一つかもしれない。

平成20（2008）年度は、まず、講義科目3科目（親族法・相続法〔法律学科1年必修〕・財産法入門

---

\* 国土館大学法学部教授

〔現代ビジネス法学科 1 年必修〕・現代家族と法〔現代ビジネス法学科 2-3 年選択〕とゼミ科目 2 科目（専門ゼミⅡ〔現代ビジネス法学科 3 年必修〕・法研指導 B（民法）〔法律・現代ビジネス法両学科共通 1 年随意〕の 5 科目<sup>1</sup>）を登録した。科目受講生全員に、一斉に連絡をとりたいという要望が当初あり、これに応えるものとして Jenzabar を紹介されたのである。登録は情報科学センターでしてくれるうえ、web 上で利用でき、非常に簡単な操作で一斉メールを出すことができることに感動した。Web リンクを貼ったり、講義資料を配布資料としてアップしておけることも、すぐに利用してみようとさせる動機となった。6 月に入ると科目履修生を自分で登録できることを知り、夏の法研合宿<sup>2</sup>のクラスも作った。法学部両学科の 1 年から 4 年まで 69 名が参加した法研合宿の名簿も、Jenzabar のおかげで楽に作成することができた。

翌平成 21（2009）年度は、大学院も含めて、筆者が担当しているすべての科目を登録した<sup>3</sup>。講義科目は前年の 3 科目に加えて、大学院法学研究科の家族法研究講義（修士 1 年選択）を登録して 4 科目となった。ゼミも、入門ゼミ（現代ビジネス法学科 1 年必修）、専門ゼミⅠ（現代ビジネス法学科 2 年必修）と卒業論文ゼミ（現代ビジネス法学科 4 年必修）を追加し、さらに入門ゼミの単位取得が困難な学生を集めた入門ゼミ再試験のクラスも作って、3 人の担当教員が利用できるようにした。また、法研合宿 2009<sup>4</sup>のクラスのみならず、平成 21（2009）年 4 月より新たにスタートした法学研修室と知財研修室も登録し、複数の教員が利用できるクラスが増加した。

平成 20（2008）年には 6 クラスの登録であったのが、平成 21（2009）年には通年で 13 クラスに倍増した。使いながら利用できる場面を発見し、便利さを実感してさらに登録科目を増やした結果である。最初に Jenzabar システム管理者の寺田さゆり氏の指導を 1 時間程度受けさえすれば、誰でも利用でき、つまずいたらいつでも寺田氏が助けてくれる。この手軽さを法学部の新任教員に大いに宣伝したので、今年度は法学部の利用教員が増加した模様である。簡単で便利なものであれば、浸透していくのは自然の理ということであろう。

### 3. Jenzabar を利用した講義の状況

Jenzabar の利用の実態は、講義科目か否かで若干の違いがある。

#### (1) 講義科目での利用

講義科目においては、出欠・配布資料・Web リンク・一斉メール・小テストで Jenzabar を利用している。出欠は公表し、受講生自身も自分の出欠状況を確認できるようにしている（ただし、自分以外の受講生の出欠状況は知り得ない）。

95	s94		出	出	出	出	出	出	出	出	出	出	出	出	出	出	出	出	14/0/0/0
96	s94		出	出	出	出	出	出	出	出	出	出	出	出	出	出	出	出	14/0/0/0
97	s94		出	出	出	出	出	出	出	出	出	出	出	出	出	出	出	出	14/0/0/0
98	s94		出	出	出	出	出	出	出	出	出	出	出	出	出	出	出	出	14/0/0/0
99	s94		出	出	出	出	出	出	出	出	出	出	出	出	出	出	出	出	13/0/1/0/0
100	s94		欠	出	出	欠	欠	欠	欠	出	欠	欠	欠	欠	欠	欠	欠	欠	3/0/1 1/0/0
101	s94		出	出	出	出	出	出	出	出	出	出	出	出	出	出	出	出	14/0/0/0
102	s94		出	出	出	出	出	出	出	出	出	出	出	出	出	出	出	出	14/0/0/0
103	s94		出	出	出	出	出	出	出	出	出	出	出	出	出	出	出	出	12/0/2/0/0
104	s94		出	出	出	欠	欠	出	出	出	出	出	出	出	出	出	出	出	12/0/2/0/0
105	s94		出	出	欠	欠	出	出	出	欠	欠	出	出	出	出	出	出	出	10/0/4/0/0
106	s94		出	出	出	出	出	出	出	出	出	出	出	出	出	出	出	出	14/0/0/0/0
107	s94		出	出	出	出	出	出	出	出	出	出	出	出	出	出	出	出	14/0/0/0/0
108	s94		出	出	出	出	出	出	出	出	出	出	出	出	出	出	出	出	14/0/0/0/0
109	s94		出	出	出	出	出	出	出	出	出	出	出	出	出	出	出	出	14/0/0/0/0
110	s94		出	出	出	出	出	出	出	出	出	出	出	出	出	出	出	出	14/0/0/0/0
111	s94		出	出	欠	出	出	出	出	出	出	出	出	出	出	出	欠	出	12/0/2/0/0
112	s94		出	出	出	出	出	出	出	出	出	出	出	出	出	出	出	出	14/0/0/0/0
113	s94		出	出	欠	出	欠	出	出	出	出	欠	出	出	出	出	欠	出	9/0/5/0/0
114	s94		出	出	出	出	出	出	出	出	欠	出	出	出	出	出	出	出	13/0/1/0/0
115	s94		出	出	出	出	出	出	出	出	出	出	出	出	出	出	出	出	14/0/0/0/0
116	s94		出	出	出	出	出	出	出	出	出	出	出	出	出	出	出	出	14/0/0/0/0
117	s94		出	出	出	出	出	出	出	出	出	出	出	出	出	出	出	出	14/0/0/0/0
118	s94		出	出	欠	出	出	出	出	出	出	出	出	出	出	出	出	出	13/0/1/0/0
119	s94		出	出	出	出	出	出	出	出	出	出	出	出	出	出	出	出	14/0/0/0/0

配布資料については、講義中に配布した資料や目を通してほしい資料をアップし、いつでも自由にダウンロードできるようにしている。資料の公開については、著作権に配慮して、筆者が作成した資料をアップするようにしている。

配布資料

ツール

テスト/課題

成績表

Webリンク

掲示板

出席管理

受講者名簿

参考書籍

講義アンケート

設定

登録番号発行

講義のお知らせ

学生用画面

詳細表示 | 簡易表示

No Header

☒ 常に公開

編集

削除

Jenzabarの利用方法

8 回ダウンロード(20 人中 4 人) [【詳細】](#)

詳細

パソコンにパワーポイントがインストールされていないと読めませんが、ツールにあるPowerPoint Viewer 2003をインストールすれば、読むことができます。

☒ 常に公開

編集

削除

ゼミ開始前ガイダンス

7 回ダウンロード(20 人中 5 人) [【詳細】](#)

詳細

2009年7月9日(木)に実施したガイダンスの際に配付した資料。夏休み中の課題、五島の連絡先、Jenzabarの使い方が示されています。

☒ 常に公開

編集

削除

大学生のライティング

10 回ダウンロード(20 人中 6 人) [【詳細】](#)

詳細

レジュメを作成したりレポートを書く前に、ひと通り目を通してください。文章を書くうえでの基本的ルールをマスターしましょう。

Web リンクでは、講義中パワーポイントで紹介した統計資料などを、自分で直接アクセスして確認できるようにしている。かつて、統計資料をプリントアウトして配布していたことがあったが、Web リンクの活用は紙資源の節約のみならず、自分で情報にアクセスして調べる意欲を喚起するという教育的効果もあるように思う。レポートや卒論の指導をするときに、これを実感する。

<b>掲示板</b>	婚姻届 <a href="http://www.moj.go.jp/ONLINE/FAMILYREGISTER/5-2-2.pdf">http://www.moj.go.jp/ONLINE/FAMILYREGISTER/5-2-2.pdf</a> <b>詳細</b> 法務省の「様式のオンライン提供」、第5戸籍手続きの中に、婚姻届の記載例があります。	<input type="checkbox"/> 常に公開	<input type="button" value="編集"/> <input type="button" value="削除"/>
<b>出席管理</b>	最高裁判所 <a href="http://www.courts.go.jp/saikosai/">http://www.courts.go.jp/saikosai/</a> <b>詳細</b> 最高裁判所のHPです。ここから裁判例情報や司法統計年報にアクセスできます。	<input type="checkbox"/> 常に公開	<input type="button" value="編集"/> <input type="button" value="削除"/>
<b>受講者名簿</b>	人口動態統計特殊報告平成18年度「婚姻に関する統計」の概況 <a href="http://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/jinkou/tokusyu/konin06/index.html">http://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/jinkou/tokusyu/konin06/index.html</a> <b>詳細</b> 厚生労働省人口動態統計特殊報告平成18年度「婚姻に関する統計」の概況です。	<input type="checkbox"/> 常に公開	<input type="button" value="編集"/> <input type="button" value="削除"/>
<b>参考書籍</b>	内閣府世論調査「家族の法制に関する世論調査」 <a href="http://www8.cao.go.jp/survey/h18/h18-kazoku/index.html">http://www8.cao.go.jp/survey/h18/h18-kazoku/index.html</a> <b>詳細</b> 平成18年12月に行われた世論調査です。	<input type="checkbox"/> 常に公開	<input type="button" value="編集"/> <input type="button" value="削除"/>
<b>講義アンケート</b>	配偶者からの暴力被害者支援情報		
<b>設定</b>			
<b>登録番号発行</b>			

講義受講生に対する一斉メールについてもよく利用しているが、100人を超えて一度にメールを出すことができないことが不便に感じる。どんな大人数でもひと手間でメールが出せることが、このようなシステムを利用する利点ではないのか。たとえ2度に分ければよいということであっても、複数の手間を強いられるのは苦痛である。また、小テストも何度か実施してみたが、あまりにもアクセス数が少ないため評価に反映させることを断念した。筆者の担当する講座は1年生の配当科目であるため、パソコンに不慣れであることも一因であろうが、評価に反映させるには全員が解答するという状況が実現されなければならない。通常の講義教室を利用する受講生の多い社会科学系の専門科目においては、Jenzabarでの試験を実施できるようになるまでにはまだ当分時間がかかりそうである。ただし、期末試験の結果のみをJenzabarで本人に通知することは、すでに試みている。

## (2) ゼミ科目での利用

ゼミ科目においても、講義科目と同様の利用の仕方をしているが、これらに加えてレポートの提出でもJenzabarを利用している。人数が少ないため、Jenzabarを利用したレポート提出を徹底して義務づけることが可能であるからである。平成20（2008）年の夏、本学ははしか休講によって春期試験を全科目定期試験期間中に実施することが難しい状況に陥った。そこで、筆者は1講義科目のみ春期試験をレポート課題に切り替えたのだが、Jenzabarで提出する者、プリントアウトして持参する者、添付メールで送信してくる者、複数の手段でレポートを提出する者、と混乱をきたし、評価をする前に全員のレポートを間違いなく記録し整理するのに神経をすり減らした。現時点では、受講生が100名を超えるとJenzabarによるレポート提出を義務づけることは難しいように思う。いずれ講義でも利用できるように、まずは少人数のゼミで訓練していくほかはないように思い、ゼミでのみレポート提出をJenzabarで行っているの

である。

### （3）講義以外での利用

Jenzabar が便利なツールであると実感したのは、実は講義やゼミで使った際ではなく、法研合宿2008で利用した折であった。法研合宿というクラスさえ登録しておいてもらえば、参加学生の申込み毎に履修者登録をしていくことができる。2週間以上にわたって参加申込みを受け付けるため、1人また1人と申込み用紙を見ながら申込みがある都度登録していった。申込みを締め切った時点で、Jenzabar 上には参加者名簿が出来ている。これを Excel に移せば、学籍番号と参加学生の名簿が簡単に作成できるのである。ワープロミスの心配もなく、前年までの苦労が嘘のような手軽さであった。参加者には、大学の web メール宛に連絡を行う旨を徹底し、名簿の配信も一斉メールで行った。直前までの参加者の増減もこれなら簡単に対応できる。合宿で行う問題も、配布資料にすべてアップした。合宿では、入門コース・応用コース・自主ゼミコースと3つのコースを用意し、自分でコースが選択できるのだが、問題を見てコースを選ぶことが可能になる。出題する教員の側から見ても受講する学生の側から見ても、便利なシステムだと思った。参加した専任教員5名<sup>5</sup>の誰もが自由にアクセスできるのもよいが、今年度まではアクセスしているのは筆者だけだったようである。参加教員が皆でクラスを作り上げていくようになることが今後の課題であろう。

法研合宿で Jenzabar の使い勝手の良さを覚え、平成21（2009）年4月よりスタートした法学研修室および知財研修室についても Jenzabar の登録をした。法学研修室は、昭和43（1968）年に開設された歴史と伝統を誇る研修室である。数々の優秀な卒業生たちを送り出してきた。開設当初は、研修生1人に机1つが割り当てられ、贅沢な勉強空間が提供されていたようであるが、10数年前に部屋が消失した。平成21（2009）年4月にその復活が成ったのである。これに加えて、新たに知財研修室も開設された。10号館5階にある自習室は、比較法制研究所と法学研修室・知財研修室の3機関が共同して利用する部屋ではあるが、かつてに比べてはるかに広く、快適な勉強空間となっている。ここには、ゼミのできる8人掛けの楕円形テーブルと、勉強机が24個設置され<sup>6</sup>、壁面には本棚が配置されている。研修室を利用するには、春と秋の年に2回ある入室申込みをして、審査のうえ入室が許可されなければならない。ここには、基本書や受験情報誌等が揃い、学年を超えて学生同士が切磋琢磨する環境がある。すでに、この部屋を利用しながら法学検定試験<sup>7</sup>（3級および4級）や知的財産管理技能検定試験<sup>8</sup>（3級）に合格した研修生も出ており、今後の彼らの成長が楽しみである。両研修室の入室許可者を Jenzabar に登録し、部屋の使用上の注意事項などを配布資料にアップしたり、一斉メールで各種講演会の情報を流したりしている。入室許可者には、連絡は常に web メールで行うので、メールのチェックを怠らないようにとの注意を与えているが、アクセス情報表示をしてみると、必ずしも全員がアクセスしているわけではない。メールに気がつくアクセスをするというパターンが一般的であることを考えると、そもそも web メールにアクセスをしていないのではないかと推察できる。Jenzabar を最大限活用するには、受講生が常に web メールをチェックするという背景が必要であるように思うが、これを実現することが現段階においてはかなり難しい状況であるように思われる。

#### 4. お わ り に

筆者は Jenzabar の利用をかなり快適であると感じてはいるが、以下に 3 つの検討課題を指摘することで本報告の結びに代えたい。第一に、Jenzabar の利用効果が十二分に発揮されるには学生が進んで web を利用できる環境が整っていないなければならないが、それが十分とは言い難いことである。自宅に LAN 接続のできるパソコン環境が整っている学生とそうでない学生とでは、明らかに Jenzabar のアクセス頻度に差が見られる。大学にできることは、学生が大学内においていつでもどこでも web を利用できる環境を提供することであるが、十分とはいえないまでも、図書館やパソコン演習室空き時間利用等でかなりの程度提供できるようになってきたように思われる。後は学生の自発性に委ねるしかないのだが、学生は億劫がってなかなかアクセスしない。一方、携帯でのメールや web は、比べものにならないくらい頻繁にアクセスしているようである。社会科学系の教員としては、長文のレポート作成はせめてパソコンで行ってほしいと思い、その前提としてメール作成や e-Learning もパソコンを利用して行いたいと思うのだが、「LAN 環境の整ったパソコンを利用する」ということが Jenzabar 利用の最初の躓きになっているように思われる。パソコンがもっと軽くもっと早くもっと手軽に利用できるようになれば、状況は違ってくるのかもしれない。あるいは、携帯端末で操作ができるようなシステムを導入するという道もあるのかもしれない。こちらが発信したメールを即時に確実に受け取ってもらえて初めて Jenzabar のよさが生きてくる。そのための方策を、今後、練っていく必要があるだろう。

第二に、Jenzabar はあくまでも講義支援であり、大学からの情報発信に十分に対応しきれないという問題点を指摘できる。たとえば、はしか休講があったときのことである。筆者は、登録したクラスの受講者全員に、一斉メールを送信した。はしか休講のことは、大学の HP にすぐにアップされたし、クラス毎に試験情報を変えながらメールを送信したので、Jenzabar のクラス登録はまんざら悪いものでもなかった。しかし、このような緊急時に、必要な情報を全学生にメール配信できたらよいのと思った。また、法学部では、卒業生を講師にしてキャリアガイダンスをたびたび実施しているが、掲示板の掲示に頼るしかないこのような情報も自分の担当する受講者を超えて学生全員に発信したい。法学研修室・知財研修室の入室者募集情報、法学検定試験の団体受験情報等、法学部の学生全員に流したい情報はいくらかもある。掲示板や法学部のホームページで現在伝えている情報を、メールで全学生に伝えることができれば、活用範囲は一層広がるように思う。

第三に、Jenzabar は在学生しか対応できないという問題がある。この問題が顕在化したのが、入学前教育の議論の場であった。法学部では、平成22（2010）年度の入学者から、manaba-folio<sup>9</sup>を導入して入学前教育を行うことになり、現在、始動中である。AO 入試と推薦入試で入学を許可された高校生に対して、すでに課題を manaba-folio で出し、manaba-folio で提出させている。操作に躓けばすぐに質問ができるようにし、入学前教育運営委員会がきめ細かく対応している。ここには、法研合宿や法学検定試験団体受験の様子、卒業生によるキャリアガイダンスなどの情報も写真入りで掲載されており、入学を許可された高校生たちは、入学後の生活を夢見て期待に胸をふくらませていることだろう。全員に一斉に情報を伝達するという手段は、manaba-folio によって達成された。しかも、リマインダーメールまでも配信してくれる。これは導入に際しての大きな評価ポイントだった。もっとも、在学生は manaba-folio の存在をまだ知らない。来年度の新入生たちは、入学後、manaba-folio に加えて Jenzabar も利用するという環境

になると思われる。1つのシステムですべての機能が備わっているということが理想かもしれないが、それぞれの用途に応じてシステムを使い分けるといってもよいのではないかとだんだん思えてきた。Jenzabarの出欠システムが自動出欠集計と連動して使いやすくなれば、教員の利用拡大につながるだろう。そうなれば、講義に関する情報はJenzabarに集約させ、大学・学部・学科に関する情報はmanabafolioで使い分けが徹底できるように思う。Jenzabarのコミュニティ機能は、講義と密着していることから学生が進んで使いたがらないように感じているが、コミュニティ機能こそ、講義（＝評価）とは切り離して別のシステムで担わせることがもしかしたら最良の方策なのかもしれない。

## 本 文 注

- <sup>1</sup> 登録受講者は、親族法・相続法138名、財産法入門71名、現代家族と法32名、専門ゼミⅡ 8名、法研指導 B50名であった。
- <sup>2</sup> 法研合宿とは、法研指導の合宿という意味である。法研指導は、後述する法学研修室の学生を指導するクラスとして誕生したようであるが、現在では随意科目として誰でも登録できる正規のカリキュラム上の科目である。1年配当では憲法・民法・刑法が、2年配当と3・4年配当ではこれに行政法を加えた各4科目が開講され、試験対策を意識した指導を行っている。法研指導受講者は夏の法研合宿に参加することが原則であるが、強制ではない。また、法研指導を受講していない学生でも、合宿のみに参加することができる。法研合宿は30年以上続いており、9月上旬に毎年同じホテルで開催される（2泊3日）。卒業しても参加してくれる卒業生が、毎年5-8人程度おり、在学生にとって就職や受験の話を卒業生から直接聞ける機会にもなっている。平成20（2008）年は、総計81名になった。
- <sup>3</sup> 登録受講者は、親族法・相続法119名、財産法入門119名、現代家族と法50名、入門ゼミ15名、専門ゼミⅠ 20名、専門ゼミⅡ 13名、卒業論文ゼミ 9名、法研指導 B35名、大学院家族法研究講義 3名である。
- <sup>4</sup> 法研合宿2009には、学生70名が参加し、卒業生 8名、院生 1名、教員 6名を加えて、総計85名となった。
- <sup>5</sup> 法研合宿2009の参加教員は 6名であったが、うち 1名が非常勤教員であり直前に参加することになったため、Jenzabarに登録したのは当初より参加が決定していた専任教員 5名である。
- <sup>6</sup> 24個の机を、春期は35名が、秋期は27名が利用している。
- <sup>7</sup> 「法学検定試験」は、財団法人日弁連法務研究財団と社団法人商事法務研究会が主催し、法学検定試験委員会が実施している、法学に関する学力水準を客観的に評価する、わが国唯一の全国規模の検定試験である（<http://www.jlf.or.jp/hogaku/>）。
- <sup>8</sup> 「知的財産管理技能検定」とは、知的財産教育協会が実施している、企業・団体（学校・官公庁等）における知的財産（発明、ブランド（商標）、著作権等）の創造・保護（権利化）・活用に関する知識及び実務的な能力に関する国家試験である（<http://ip-edu.org/>）。
- <sup>9</sup> 朝日ネットが提供する教育機関向けポートフォリオである（<http://manaba.jp/about-folio.html>）。学生の一人一人にポートフォリオスペースを提供する点で、Jenzabarとは大きく異なるシステムである。